

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(9月30日～10月6日)

2024年10月11日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●9か国の大使による信任状の捧呈(10月1日)

●ロシアの無人航空機4機がベラルーシ領空に侵入し、うち1機が爆発(10月3日)

●ベラルーシへの無人航空機の侵入等に関するルカシェンコ大統領の発言(10月4日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●9か国の大使による信任状の捧呈

・中国、セルビア、カザフスタン、アルジェリア、モリタニア、ブルンジ、クウェート、ドミニカ共和国、ウルグアイの9か国の大使が信任状を捧呈。

(1)ルカシェンコ大統領の挨拶

・我々にとって非友好的な民族や二の次的な国はない。

・西側は、一級市民と二級市民が存在するといった自らの偏った時代遅れの世界秩序の認識が正常だと考えている。そして、自分たちの見解に賛同しない者がいれば、制裁や多様な制限で首を絞める。

・ベラルーシに対する外部からの攻撃の次の口実は、大統領選挙の選挙活動となるであろうことは明白だ。我々は、状況を揺るがし、ベラルーシを混沌の渦に陥れることを容認してこなかったし、今後も容認しない。誰かが好むと好まざるとにかかわらず、ベラルーシ国民だけが自らの運命を決める権利を持っているのである。

(2)各国大使に向けたルカシェンコ大統領の発言

(1)張汶川・中国大使に対する発言

・ミンスクと北京の間では、かつてないほど高いレベルの信頼に基づいた協力が達成される。世界経済の危機的状況にもかかわらず、昨年末、両国の貿易高は新記録を達成した。

・親愛なる友人、習近平・中国国家主席に対し、協力への建設的なアプローチに対する特別な謝意を表したい。そして、習主席が都合の良い時にベラルーシを訪問されるのを待っていると伝えてほしい。

(3)イリナ・ヴカイロヴィチ・セルビア大使に対する発言

・ベラルーシはセルビアと伝統的に友好関係を築いて

おり、それは兄弟のような2つの民族間の強い歴史的、精神的な絆に基づいている。

・ベラルーシとセルビアの全面的な協力関係を強化し、交流を拡大し、産業、農業、医療、ハイテク技術の利用を含むその他の分野における互恵的な協力関係を発展させることに関心がある。

(10月1日 大統領府)

●グロツシー国際原子力機関(IAEA)事務局長との会談

(1)ルカシェンコ大統領の発言

・ベラルーシはIAEAとの協力を常に重視してきたし、現在も非常に重要視している。これは主に、核保有国となったこと、我々が原子力発電所を建設したことに起因する。

・リトアニアでは、我々の原子力発電所だけでなく、ベラルーシで起きていること全般について騒いでいる。しかし、これはすでに政治的な話であり、それについて話すのはやめよう。我々は安全保障と平和に全力を尽くしており、地域の核安全保障を確保するために、我々にできることは全て行うつもりである。

・最近、ウクライナでは、ルカシェンコがチョルノービリ原子力発電所を奪い取ろうとしているなどという噂があった。いまだに理解できないのだが、なぜルカシェンコにチョルノービリが必要なのか、その根拠はどこにあるのか。チョルノービリ原発事故の被害はベラルーシ領の4分の1に及び、我々は事故の後遺症といまだに戦っている。したがって、チョルノービリを奪い取ろうなど全くのナンセンスである。

(2)グロツシーIAEA事務局長の発言

・ベラルーシの原子力発電所建設プロジェクトには当

初、多くの疑問や意見があった。ベラルーシは、IAEA とどのように協力し、IAEA の専門家や調査団とどれほど緊密に交流し、特にこの問題に対する開かれた姿勢を示すことができるかの一例となった。

(10 月 1 日 大統領府)

●ベラルーシへの無人航空機の侵入等に関するルカシェンコ大統領の発言

ルカシェンコ大統領は、ブレスト州ピンスク地区パラホンスクを訪問し要旨以下を発言。

・ウクライナとの国境に軍を集結させているのは、ウクライナがそのようにしていることを受けた対応。我々にはウクライナと戦うつもりなどなく、ウクライナも我々と戦いたがってはいない。

・ウクライナ指導部は、まず第一に自国を復興させなければならないのだということを、自らに近しい人々、とりわけベラルーシ人の助けによってそうするということをわきまえなければならない。

・無人航空機(UAV)がベラルーシに侵入しているのは、経験の浅い者が操縦していて、電子戦装備が作動した結果、UAV が方向を見失っているため。

・UAV がベラルーシに侵入する事例は複数件あり、ロシア側からもウクライナ側からもあったが、その多くを我々は撃墜しており、それがロシア機なのかウクライナ機なのかには注目していない。

・大統領の主な任務は、この戦争にベラルーシを巻き込ませたりはさせないということ。そうすることが可能である限り、我々は参戦せずにロシアを支援し、今後とも支援する。

(10 月 4 日 大統領府)

【外交】

●英国は、ベラルーシ民間銀行大手「アルファ・バンク」を制裁対象に追加

・英国は、同行を「ベラルーシ政府にとって戦略的に重要な分野である金融サービス分野で事業を行うことにより、ベラルーシ政府に利益をもたらす、あるいは政府を支援することに関与している、あるいは関与していた」として、制裁対象に追加。

(10 月 3 日 英国財務省、「ポジルク」)

●リトアニアは、機密情報を扱う公務員等に対し、ベラルーシへの渡航を禁止

・リトアニア議会は、機密情報を扱う公務員やその他の職員に対し、ベラルーシ、ロシア、その他の特定の国への渡航を禁止する法案を満場一致で可決。

・親族の死亡など、政府によって規定された特定の場合には、許可を有する場合、もしくは出国に関する情報を申告した場合は渡航可能となる。

(10 月 4 日 Delfi.lt)

【内政】

●マチュリシチ飛行場におけるロシア軍の早期警戒管制機(AWACS)破壊工作の被告らへの判決

・2023 年 2 月 26 日、ミンスク郊外のマチュリシチ飛行場でロシア軍の A-50 早期警戒管制機(AWACS)に対する破壊工作が行われた。

・これに関して、10 月 4 日、12 人の被告に対する裁判が行われた。被告らはそれぞれ、「テロ行為」「航空輸送手段を意図的に運航不能にする行為」「国家への反逆」「諜報活動」「テロ行為への参加のための教育及びその他の訓練」「爆発物および爆発装置の違法取引」「テロ及び過激主義活動への財政支援」「過激主義組織への参加」「公共の秩序を著しく損ねる活動への積極的な参加」等で有罪とされた。

・テロ行為の実行犯として、ウクライナ国籍のシュヴェツ氏に 25 年の自由剥奪刑の判決が下され、その他の共犯者らには 15 年から 25 年、その他本事件に関与した被告らには 2 年 3 か月から 15 年の自由剥奪刑の判決が下された。

・シュヴェツ氏は、本年 6 月にウクライナに帰還している。

(10 月 4 日 ベラルーシ検察、「ゼルカロ」)

●国家保安委員会(KGB)は、ヴァチオルカ・チハノフスカヤ民主勢力代表主任補佐官を「テロリスト」のリストに追加

(10 月 3 日 「ポジルク」)

●10 月 3 日現在の政治犯の数は 1,285 人

(10 月 3 日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●ロシアの無人航空機 4 機がベラルーシ領空に侵入

・10 月 3 日、「シャヘド」型の自爆攻撃型無人航空機 (UAV) 1 機はウクライナのキーウ州から、4:40 にベラルーシのモズィリ方面に侵入。同機は、4:55 頃にベラルーシ南東部ゴメリ州南部カリニコヴィチ市上空で爆発。同じ時間帯に同市の複数の住民が、当該 UAV の飛行音と大きな爆発音を耳にした他、爆発の衝撃波はカリニコヴィチ近郊の複数の村にも到達。

・10 月 4 日 12 時前、内務省国内軍はカリニコヴィチ在住の女性を、「過激主義的リソース」に動画等を送っていたとして拘束した旨、動画付きで発表。

・さらに、同日 12:55 頃、「シャヘド」型の自爆攻撃型無人航空機 (UAV) 3 機がウクライナのチェルニヒウ州から、ゴメリ州方面に侵入。

(10 月 3 日、4 日 「ベラルスキ・ハユン」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(9 月 30 日～10 月 6 日)

・リトアニア国境警備局は公式情報を発表していない。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも 79 人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも 360 人を阻止。

(10 月 1 日～10 月 7 日 「ポジルク」)

【民主勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表のポーランド訪問(10 月 1 日～4 日)

・チハノフスカヤ氏は、ドゥダ大統領、シェモニャク内務・行政大臣、シコルスキ外務大臣、ボドナル法務大臣他、ポーランドの要人と会談。

・ワルシャワ安全保障フォーラムのベラルーシに関するパネルディスカッション及び欧州安全保障協力機構 (OSCE) ワルシャワ会議等で演説し、ベラルーシの政治犯の問題につき発言。

(10 月 5 日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

【その他】

●政治犯の釈放と増加

・人権団体「ヴァスナ(春)」は、本年 7 月 3 日、8 月 16 日、9 月 4 日、9 月 16 日の 4 回に渡って行われた政

治犯を対象とする恩赦で、115 人が釈放された一方、7 月 3 日～9 月 16 日の間で 142 人が政治犯となった旨報告。

(10 月 1 日 人権団体「ヴァスナ」)

●国連拷問禁止委員会は、ベラルーシにおける拷問に関する年次報告書を公開

・国連拷問禁止委員会は、ベラルーシで被拘禁者に対する拷問が意図的かつ定期的に行われている旨指摘し、法執行官及び検察がそれを容認していると批判し、ベラルーシ政府に対して、拷問や不当な扱いをやめ、拷問を犯罪とし、加害者を処罰するよう求めた。

(10 月 2 日 国連拷問禁止委員会、「ゼルカロ」)

●ラトビア国防省は、対ベラルーシ国境に防空装備を持つ機動戦闘団を配置

・ラトビア国防省は、同国空軍機動戦闘団及び無人機探知用の特殊レーダーを対ベラルーシ国境に配備し、ラトビア領空の保護を強化。

・9 月 7 日、ラトビア東部レゼクネ付近にロシアの無人航空機 (UAV) が墜落した。

(10 月 2 日 「ゼルカロ」)

【統計等】

●2023 年にポーランドで生まれたベラルーシ人女性の子どもは 1,004 人(同国の全新生児の 6.7%)

(10 月 1 日 「Most」、「ゼルカロ」)

(了)